

地区大会のさまざま



対談 横浜 柳瀬省吾
東京 湯浅恭三

タウン・ミーティングを活潑にしよう

地区大会の目的

柳瀬 ロータリーの大会の目的は、友好親睦を深めて、ロータリーの趣旨をよく理解し合うところにあるわけですが、現在、はたして日本でそれを充分達成できているか、という疑問がありますね。出席人数はなるほど多いけれど、そこまで徹底していますかどう。講演にしてもディスカッションにしてもです。タウンミーティングというのを近頃やりませんが、私、一度盛岡でやりました。「東北各地の人の問題」というテーマを佐藤ガバナーと話し合ってきたので。

湯浅 あることはありますね。青少年問題とか交通問題とかをテーマにして。しかし一般に関心は薄い。出席が悪いですよ。誰がパネリストになるかで違っても来ましようがね。

柳瀬 1,000人以上も集まるとざわついてしまし、パネルばかり喋ってフロアからの発言が殆どなかったりして、もっと全員パテシペートできるように研究する必要があると痛感するのです。

湯浅 ひとつには親睦が主になってしまっ、目的がぼやけて漠然としてしまったためでしょうが、しかしロータリーの地区大会というのは、ロータリーらしい独特な形式をもっていますから、やはり出席すれば得るものがあると思いますよ。いい講演者を選ぶ、グループミーティングをやるな

どして。

柳瀬 それは非常にいい点ですが、ただ討論の結果を発表する時間が8分や10分でなく、15分はほしいですね。また「友愛の家」で売店を開くと皆そこへ行ってしま。親しく話し合う時間をとられてしま。みやげ物を買集めようというわけなんでしょうが、「友愛の家」で物を売ったりすることは、外国ではあまりしませんよ。目的がそらされてしまいます。

湯浅 世界大会のときの「友愛の家」というものは非常にいいですね。

柳瀬 記念品なども、金銭的供与でないとはいへ、日本では少し張り込みすぎますね。それから大会開催日なども、1年でなく2年くらい前から計画して、同じ日に4つも5つもダブルなんてことがないようにしませんとね。

印象に残った大会

湯浅 印象に残った大会がございますか。

柳瀬 それぞれに印象は残っていますが、無駄が相当あると思うのです。来賓として出席すると、第1日目の晩餐会のあとで、会長代理のためのセカンド、パンケットみたいなことをやりますね。意味がないし、無駄ですよ、あれは。お膳立てはにぎやかだが、こっちは疲れてますからね。

湯浅 前夜懇談会をするのは日本だけですけれ

ど、大会のやり方のなかに、会長代理夫妻との親睦をはかるように、と述べられてあるんですね。この頃は日本でも前夜懇談会をやらなくなったので、その機会をどこに求めたらいいか。3日目は無理ですから、第1日目にする、夜は晩餐会でしょう。それからとなるとどうしても遅くなる、といって、他にいい機会がないわけなんです。

柳瀬 ずいぶん多くの人が出るのですね。

湯浅 地区によって、広く、あるいは狭く、さまざまですが、やらないところもあります。

小さい大会と大きい大会

ぼくの印象に残っているのは、戦前北海道でやった地区大会で、北海道という場所柄のせいもあったでしょうが、人数も500人くらい、あるいは300人くらいだったか、非常に小規模ですけれど当時の佐藤ガバナーや宮脇さんが活躍されて、非常に深い印象が残っています。もう一つは東京での東日本の連合地区大会、これは大規模でした。プログラムのどこがというより、全体的な印象ですが非常に面白かったと思います。

柳瀬 京都でも全国大会をやりましてね。3,000人も集まって、場所も少し制限はありましたが、そのあとのエクスカーションは、皆喜んだようです。私は行きませんでしたけれど。

大会の印象という、やはりその地方でのエクスカーションがよかった場合で、そのほかはまあ大同小異ですね。

湯浅 この頃は、エクスカーションもあまり評判がよくないんです。東京は、観劇と夜のコースで、357地区などでは正丸峠へバスで行ったりしますが、参加者が非常に少ないそうです。

柳瀬 東北は家族の参加者が概して少ない、西の方が多いですね。

湯浅 東北は普通の会員でも少ない。しかし皇太子御夫妻がお出になられたときは多かったですよ。平生はめったにない何か特別なことがあると多くなりますね。たとえば東京でなら、宮城内を参観できるとかの。

柳瀬 そうということ、観劇ですかね。

湯浅 まあ、外国ではそういうことは殆ど考えませんから、結局スピーカーですね。

柳瀬 前夜懇談会をやるようにしたらどうでしょう。この頃はやったりやらなかったりですね。

湯浅 オフィシャルじゃない、とわかると、じゃやめよう、ということになるらしいけれど、やる必要がないのか、面倒だからか、そこがはっきりしません。今年みたいに規定審議会のないときは勿論やる必要はないわけですけども。

重要なのはプログラム

結局プログラム如何ですかね。アトラクションとか、家族ともども楽しめるスピーチなどで。

しかしR Iのプログラムの運び方に従うと、地方色を出す余裕がなく、地方の特殊性がうまく盛りこみにくいのです。残るところは、メインスピーカーと殊にタウンミーティングで発揮させるように努力すべきでしょうね。

柳瀬 われわれのほうでは部門別協議会をやっている、これはいいようです。例のクラフトアッセンブリーなどは、日本ではどうもね。馴れないせいかもしれないが、時間が少なすぎる、10分か15分では、やり方次第で面白いと思うけれど。

湯浅 余興にも地方色は出ますけれど、獅子舞とか芸者の踊りなど、どこでも同じようですね。

柳瀬 それより子供のわらべ唄とか、学生達のローカルソングなどのほうが興味がある。清潔だしね。ぼくの年令のせいかもしれないが。

広島はどこかで、インターアクトの芝居をやったそうで、面白いと思いますね。

湯浅 昔、神戸で「勸進帳」をやったことがあります。富樫が弁慶に「頭に戴くそれは」とやるでしょう。ロータリーのマークがついてるんですね。東京でも昔中西君など、時々やっていましたよ。芝居とまではいきませんが、少しぐらい間違っただけ、かえって笑わせて面白い。レークプラシッドなんか巧いですよ、時々やりますが。

柳瀬 パテシペーションに関する劇などやったら面白いでしょうね。脚本さえうまく書ければ。

戦前と戦後の大会

湯浅 戦前と戦後の違いのようなもので何か。

柳瀬 戦前は名古屋の大会へ一度出席しただけですから…

湯浅 戦前は少人数でしたから、ロータリー色は濃厚でしたね。全国が1地区だった頃は勿論ですが、その後も全国から参加して、友人も全国的にできましたが、現在のように多人数だと、地区大会で親しくなるというようなことも少なくなります。

柳瀬 前には、コンベンションなどで、参加者をリラックスさせるため体操とか、歌を唄うとかしましたね。そういうことをもう少しやったら、

湯浅 一時「箱根の山は天下の嶮」なんかよく唄いましたね。

柳瀬 この頃は皆音楽の知識を持っているようですから、譜の入った歌詞を渡せば、みんな相当唄えるんじゃないでしょうか。藤山君あたりにリーダーをやってもらって、ご婦人方をアattendするような方法をとってね。気持ちが皆さんほぐれてきますから。

国外の地区大会

湯浅 去年のフィリピンの地区大会へ、会長代理で行きました。600人程参加しましたが、会場がせまくて200人位しか入れない。はみ出した人が廊下やほかの室にもいるわけですが、拡声機もないのです。

柳瀬 私が345区の地区大会へ会長代理で行ったときは150人足らず、台湾、ベトナムなど加わってもそんなもので、ホテルの一室でやった。そこで何も彼もやってしまう。グループディスカッションなど。香港大学へ行っているフェローがいて話をしましたが、それはよかったですね。財団へのコントリビューションが少ないので増すように頼んでくれと、エバンストンから特別に希望されて、私がお話をし、その場で決議らしいものを拵えて、皆で努力しようということにはなりましたがね。東南アジア辺はまだまだどうもね。

コンベンションあたりのタウンミーティングなどでは、発言者を予め打ち合せておいて、フロアから質問を出させたりするのですか。

湯浅 外国では、殊に世界大会のときなどは、その必要はありません。皆喋りたい連中ばかりですから、発言を求められると、すぐ立上ります。日本では皮切りをやる者を作っておかないとね。

大会に対する希望

柳瀬 トロント大会でやったインターアクトのタウンミーティング式なものとか、ロータリーフェローをもっと集めてディスカッションをやるとかしたらいいと思いますね。余興などに費用をかけずに。

それから、大会の決議を委員が説明して、ガバナーが「異議はありませんか」とやって、それでOK。もっとフロアからの質問が欲しいですね。あれでは頭の中に入ったかどうか疑問ですよ。もっと時間をかけて、重みをつけたいですね。

湯浅 前夜懇談会をせずに、予めの説明がなければ、質問も出るし、時間もかかるでしょう。

大会2日目の出席を

柳瀬 2日目の出席が問題ですね。もう少し重要なプログラムを組む必要があります。

湯浅 この頃はR Iのきめた時間よりたいてい短くて済んでしまう。ガバナーのスピーチなどもだんだん短くなる。ロータリーの目的を知らせる意味でも、もっと時間をかけて話さないといけない。感想は短くても、地区の現状報告はていねいにね。フィリピンでは3日間にわたってやりました。初めの報告を50分ぐらい、現状報告を40分ぐらい、感想も30分ぐらいやりました。規定の時間だと、少なくとも30分はやらなければいけないんです。やはり地区大会では、ガバナーのスピーチが一番重要なものなんですから。

それから、地区大会へ往復する途中などでは、やはりロータリアンらしい慎重な行動をとって欲しいと思います。

柳瀬 京都の大会のとき、帰りの切符をアレンジしておきながら、黙って帰ってしまって、交通公社で困ったという話を聞きましたが、いろいろロータリアンの信用にもかかわりますからね。

私はやはり、2日目にいい講演とか余興とかをホストクラブで考えてもらって、ぜひ充実させるよう要望しますね。砂を撒いたようにポツンポツンといるようでは困る。

湯浅 おみやげなど昔はかさばるものを貰って困りましたよ。最近は簡単になったようだが。

柳瀬省吾君 横浜共立倉庫株式会社社長
1954—55年度ガバナー

湯浅恭三君 湯浅坂本法律特許事務所長
1962—63年度ガバナー

柳瀬 荷もふえるし、家での置き場にも困る。ある時、土製の人形をもらったが、首がとれてしまった。帰ってから糊でくっつけるよりしようがなかった。

R I 役員を紹介も

湯浅 私は、R Iの役員をしている人や委員の肩書きを、プログラムに書き入れて、ちゃんと紹介したいと思うのです。国外ではやっていますよ。理事以外の委員には全然やっていませんが、やったほうがいいと思います。

柳瀬 5年間やってるけど、ぼくも一度も紹介されたことがないんです。

文献には、大会での娯楽はやめよと書いてありますが、どの程度をいうのでしょうか。余興もやはり娯楽のひとつだろうからね。

みんながパテシペートできる大会を

湯浅 音楽とか踊りとか、そういう催しものことではないでしょうかね。ダンスパーティーくらいはいいのでしょうか。皆でパテシペートできるものなら。

柳瀬 新会員の大会参加を奨励したいですね。誘われないと腰が上らないんでしょうかね。

湯浅 全員がバスに乗って出かけるクラブもありますよ。

柳瀬 ありますね。地方のクラブでは割合に多いようですね。しかし3日間は、忙しい人にとって困るんだな。東京あたりでは、午前顔を出して、午後は帰るということになる。やはり全員が熱意をもってパテシペートできる地区大会になるよう努力したいものです。